

まちネットワークよりい まちネット寄居 私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

さあ 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

地域通貨をイメージしてみました わたしたちの安心を支えるしくみづくり

つうは、よひょうに問いかけました。「金、金、金 そんなにお金が大それたの。よひょう、あんたはいったいどうしちゃったの?」つうの悲痛な声が響きます。お金に取り付かれてしまった朴とつなよひょうの人生は、最愛のつうを失う結末となる木下順次作「夕鶴」の物語はあまりにも有名です。古今東西を問わずお金によって人生を狂わせてしまうことはわたしたちの近辺でも数限りなくおきています。

すべて市場経済の貨幣価値に換算されてしまう社会にあって、人と人との温かい思いやりの行為やお互い様の助け合いが希薄になっています。教育も健康も介護もすべてお金で買う構造はますます助長しています。最近眼にする介護付老人ホームのチラシでは、入所金1千万円から月の諸経費も約20万円とたいへん高額な内容です。一般庶民にはとても手が届きません。

けれど、わたしたちは住み慣れた地域で、安心して日常も老後も暮らして行きたいという思いを抱いています。これはこれまでの井戸端会議の中で皆で語り合ってきました。たくさんのお金がな

くとも、「お互い様」の助け合いを広げていくことで安心できるのでは。

地域には多くの豊かな人材が眠っています。老若男女を問わず、もっと人が活かせるのでは…。もっと人と人を繋ぐことができるのでは…。そこでサービスと物、サービスとサービス、物と物との交換を気楽にできる道具として「地域通貨」を考えました。

地域通貨はすでに世界的に、もちろん日本各地でも、もっと身近では生活クラブ生協でもすでに取り組んでいます。この道具「地域通貨」をもっとエリアを区切って顔の見える関係の中からスタートし、徐々に地域に浸透できるように計画をしていきたいと思っています。

地域通貨は様々な可能性を持っています。コミュニティービジネスとの相性もよく、人が集まることで「ファミリーサポート事業」や介護、環境ビジネスなど日常生活の中で必要とされるコミュニティーワークを生み出し、支える土台とも成り得ます。

ますます広がる貧富の差、富を得るためには手段も選ばず、生命が軽視される企業体質。現実にお

わたしたちの目の前には、有害と分かっているにもかかわらず放置されてきたアスベストの問題や何十年か後に発病するかもしれないBSEの食肉牛、遺伝子組み換え食品、ダイオキシン、大気汚染の問題などあまりにも大きな危険因子だらけです。将来への不安は募る一方です。

わたしたちは一人では闘えませんが、でもお互いを支えあって生きる仲間が力となります。まずは自分たちの足元から安心を作っていくませんか。さあ、わくわくドキドキしながらわたしたちの新しい価値観の交換をデザインしていきましょう。



ひと言 言わせて



ああ、がっかり 寄居町 新生チャレンジプラン

篠原由実子

寄居町新生チャレンジプランと名付けた行財政改革大綱(案)について、新生町民会議委員への説明会が11月10日夜、庁舎にて行われた。

事前に送付された冊子の“策定背景”の中に「これからの行政運営は、施策・事業の形成や選択から事業執行までの各ステージにおいて、町民の参画を求め、地域住民らによる地域づくりを実現していく必要がある。」という一文を見つけたときは、やっと気付いてくれたのねと嬉しかった。しかも、改革の“基本目標”の一番目に、「町民参画と協働による開かれた行財政運営の推進」を挙げているのだ。

これは期待できるかも・・・しかし・・・、実際には主だったところの単なる経費削減(案)の説明があっただけ。『安心と豊かさが実感できるまちづくりを目指して』という“改革の基本理念”からはほど遠いと言わざるを得ない内容であった。その副題は、『簡素で効率的・効果的な行財政システムの構築』というが、どこなら減らせるかという視点が先行しているのでは？

性懲りもなく深谷市の隅っこに入れてくれるのを期待して単独行政に力が入らないの？ 半

年も掛けてこれだけ？ ああ、がっかり。情けない。町民の経済活動を活性化していくための方策が抜けている。寄居町の中でお金を循環させ、増収に結びつけていくための方策がない。それを実現するためには、どのように町民と協働していくのか。来て良し・住んで良しの寄居町をなぜ目指さないのか？

子どもの 豊かな感性を じっくり 育てたいな

すずめおばさん

私のピアノ教室では毎年小さな音楽会を催します。生徒も講師も時には親御さんも、お気に入りの曲をひっさげての、ソロあり、アンサンブルや合奏あり、音楽遊びありのイベントです。

今年は開催日を11月にしたのですが、そのために想いもしなかった事態が生じました。なんと参加できない生徒が6人も！「他の習い事の発表会と重複」「スポ少の試合」「受験で」などの理由です。「この季節は芸術やスポーツの催しが集中するんだ」とそこで気がつき、主催者として配慮

が足りなかったと反省しました。参加できなくなった子達も曲を決めてからずっと前向きに練習してきたので、本人が何より残念だったでしょう。

でもまあ、音楽会のためだけの練習ではないですから、それはそれで素晴らしい宝が各自の中に残るはず・・・ですが。それにしても、小学生も習い事やスポーツ・塾などをかけもち、中学生もそれにプラスして部活があり、アイドル並みのスケジュール。

どれも自分が楽しんでやっているのかな？ ゆったりできる時間はあるのかな？ どれもこれも全部こなすのは大変でしょう。感覚や感受性の豊かな時期に、そういう忙しさで、「感じたり表現したりする力」は、じっくりとのびやかに育つのかな・・・と考えてしまうこの頃です。

もみじ

松浦奈々江

辞典にあり植物図鑑にない「もみじ」について思い違いをしておりました。早速調べてみたところ「もみじ」は固有植物ではなく秋に葉が色づく木々の総称であったこと。(今さらと笑わないでね)『もみつ』と言う動詞が元になった言葉で「葉の色が変わる」と言う意味の古語で、語源をたどると

「もみいつ(色を揉み出す)」と言う言葉。

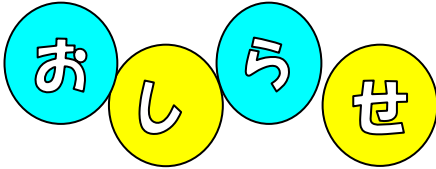
秋になり緑だった葉が色を揉み出すかのように鮮やかな赤や黄色に染まっていく様子を古代人は「もみつ」と表現したそうです。ですからもみじには赤く色づ

く楓や樫、蔦など、银杏や櫻は「黄葉」となるようです。

子どものかわいらしい手を「もみじのような手」若い女性が顔を赤らめる様子を「紅葉を散らす」などといいますが、これは楓を指し、形や色からの連想表現だった

のですね。

美しい表現を持つ日本の言葉文化が少しずつ失われてゆくことに感傷的と言われるかもしれませんが、人として心のゆとりが持てる世の中であって欲しい昨今です。



ネット定例会議

●12月7日(水)PM1時30分～中央公民館

地域通貨の実行委員会立ち上げなど話し合います。

編集後記

娘に第三子が誕生した。上ふたりは男子。今回も男子。立派に団子三兄弟となった。けれど今回のお産は、家族全員が立合い、真夜中の2時、陣痛に苦しむ母親を励ましながら涙、涙のお産だったという。生命の誕生の瞬間を家族で見守り、支えることで、命の尊さを実感できたことはいままでもない。何より父親が変わった、とは娘の感想。